

4. 小学生の競技の普及状況に関する調査

4-1 競技の環境

小学校期から競技に親しむには、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどの地域クラブや、民間スポーツクラブ・スクールといった組織のほか、競技施設や指導者などの確保を通じて日常的に競技を行う環境が必要となる。表8に、小学生が日常的に競技を行う環境の有無を示した。小学生が日常的に当該競技を行う環境があると回答したのは36団体であった。環境がないと回答した団体においても、競技施設（海や山なども含む）へのアクセスや用具など、競技の特性が影響していると考えられる。

表8 小学生が日常的に競技を実施する環境の有無（n=63）

	団体数
日常的に当該競技を行う環境がある	36
日常的に当該競技を行う環境がない	27

続いて、小学生が日常的に当該競技を行う環境があると回答した36団体に、少子化による小学生の減少が競技の普及に与える影響をたずねた。「競技者の減少が課題である」と回答したのは14団体で、全体の38.9%を占め、次いで「競技者は減少しておらず、特に影響がない」が9団体（25.0%）、「競技者の減少はないが、今後の減少が危惧される」が6団体（16.7%）であった（図9）。「その他」の7団体では、「小学生の登録管理は行っていないため、詳細は把握できない」「小学生への競技普及は、開始から10年弱のため比較が難しい」「年々（小学生の競技者が）増えている」といった回答が得られた。

図9 小学生の減少が競技の普及に与える影響（n=36）

